

神谷市長に政策・予算要望を提出!

10月30日、神谷市長に来年度に向けての政策・予算要望書を提出しました。

要望書には、これまで市民の皆様からいただいた声やご意見を多数盛り込んでおります。

要望書を提出し、市議会で質問・提案を積み重ねることで、実現にいたるものも多々あります。

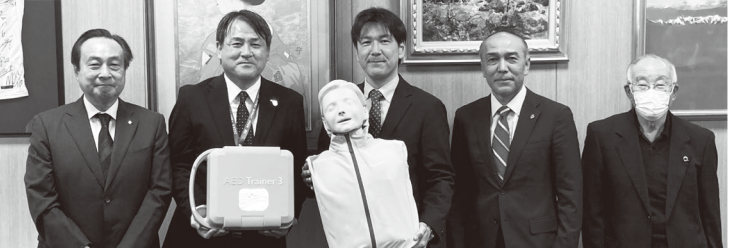
これからも皆様のご意見をお聞かせください。



こどもの命を守ろう! AED訓練用具を寄贈!

11月4日、市教育委員会を訪問し、鶴岡市教育長に心肺蘇生訓練人形とAED用具一式を寄贈しました。会長を務める千葉ライオンズクラブの活動で、これまで継続的に約60セットを寄贈しています。

この訓練機材により、各小中学校でこどもたちがAEDの使い方を学ぶ授業が実施され、実際にAEDが利用され、中学生の命が助かった事案も報告されています。



九州豪雨、熊本で災害支援活動!

8月に発生した九州豪雨災害を受けて、8月下旬、すぐさま熊本市入りし、九州各県からのボランティアの方々と支援活動に従事しました。

浸水被害の住宅の家財道具・畳の撤去、清掃活動に取り組むとともに、うつ病等の被災者の方へのケアにもあたりました。

現場で得た経験を千葉市の防災対策に活かしてまいります。



【熊本市でボランティアの方々と支援活動】

市政へのご意見は…

携帯電話 090-3694-4173 TEL/FAX 043-255-8108

携帯電話か留守番電話にメッセージをお願いします! お手紙も大歓迎です!

ホームページ <http://www.kamei-takuma.com>

メール DQG06110@nifty.ne.jp

フェイスブック、ツイッターで、日々の活動を報告しています!

亀井たくま

で検索ください!



亀井たくま(45歳)、日々修行中です!!

1980(昭和55)年3月生まれ。中央区椿森出身・在住。

●作草部幼稚園 ●都賀小 ●椿森中 ●市立千葉高 ●早稲田大学政治経済学部 ●早稲田大学大学院公共経営研究科修了。2007年市議選で21票差で落選。2011年初当選。2023年、4期目当選(2期連続1位当選)。学生時代は吹奏楽部に所属。

地域での仕事

- 千葉市スポーツ推進委員
- 千葉市青少年相談員
- 院内小、椿森中地区各種団体役員
- 椿森3丁目・5丁目地区役員
- 第4地区(椿森中学校区・東千葉地区)町内自治会連絡協議会理事

資格

- 行政書士
- 社会福祉士
- 精神保健福祉士
- 愛玩動物飼養管理士
- 防災士
- ホームヘルパー2級
- 社会保険労務士
- 宅地建物取引士

議会での仕事

- 都市建設委員会委員
- 市議会運営委員
- 保健所運営協議会委員
- 議会機能向上委員会委員

趣味

- 明治～昭和の懐メロ。童謡・唱歌。
- NPO東海林太郎顕彰会理事(本部・秋田市)
- 好きな歌手は灰田勝彦、東海林太郎、三浦洸一。(地域で演奏・茶話会のボランティアしています)

市民の皆様と一緒にクリーン・あたたかな市政をめざします!

ワンコインカンパ(1口500円・複数口大歓迎!)にご協力ください。

郵便振替口座 00190-7-456984 亀井たくまと亀の歩みの会



最後までお読みいただきまして、ありがとうございました!

自宅 〒260-0042 千葉市中央区椿森3-13-8

事務所 〒260-0042 千葉市中央区椿森5-4-5

ホームページは **亀井たくま** で検索をお願いします!

携帯 090-3694-4173

TEL/FAX 043-255-8108

メール DQG06110@nifty.ne.jp

路線バス減便問題、さらなる対策強化を!

市議会では政策条例提案を目指す議会へ躍動!

皆様、いつも御世話になっております!

日頃からの市政へのご理解・ご協力にあらためて感謝を申し上げます。

さきの9月～10月議会においては、亀井たくまは代表質疑、常任委員会、決算審査特別委員会ですべて質疑に立ち、皆様からの声を届けてまいりました。

さまざまな分野の質問を行いました。内容を厳選・要約してお届けいたします。

どうぞ今後とも叱咤のほど、よろしくお願い申し上げます!



9月～10月議会で決まったこと!



市施設での「CO2排出」実質ゼロへ!

市では、地球環境保護のため、脱炭素を積極的に進めており、これまで太陽光発電設備などの整備を進めてきました。

令和8年度から、清掃工場の余剰電力の活用、再エネ電力調達により、すべての市有施設(約700施設)での「電力消費に伴うCO2排出実質ゼロ」が実現することとなりました。

(⇒質問の詳細は2面へ)

どうする! 私たちの足、バス路線を守ろう! ～各種施策を展開中!～

市内のバス路線は、コロナ禍で利用者が大きく減少し、現在ではコロナ前の9割まで回復しましたが、運転手不足も重なり、便数は1割減少(約8,810便→約7,940便)しています。

この間、市では毎年、バス路線維持のための各種施策に取り組んでおり、今回の議会でも、バス路線の現状をデータ分析し、より良い路線や運行のあり方、施策案を提示するための詳細調査を行うことが決まりました。(2200万円)

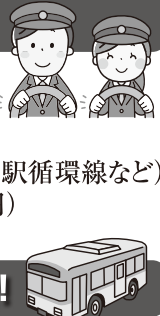
今後、データ分析を進め、来年3月に「バス路線の維持・確保施策案」をとりまとめる予定です。

バス路線維持の主な取り組み

- 生活交通バス路線維持支援(7500万円)
- 市内の重要な23路線の運行費用の補助。
- (中央区の路線では①千葉駅～浜野駅、②千葉駅～淑徳大学、③千葉駅～西千葉駅循環線など)
- 運転手養成支援・人材確保支援(4100万円)
- コミュニティバス運行(6500万円)

大巖寺線は土休日のバスが復活!

令和6年4月に、土休日便30便が0便に減便となった大巖寺線(千葉駅～大巖寺)は、地元町内会、バス事業者、千葉市が連携・協議を進めた結果、令和7年6月から便数が復活しました! 路線維持のためには、市の支援事業の充実、バスの積極的な利用促進が重要です。



皆様からの声をひとつひとつ市政へ! (代表質疑に登壇)

市の財政について



Q 本市の財政の現状と今後は。

A 市債残高は、前年度末37億円減の9530億円となり、平成22年度の1兆815億円をピークに着実に減少している。また、将来負担比率は120.1% (前年度比2.3ポイント減少)、実質公債費比率も10.4% (前年度比0.3ポイント減少) となり、財政健全化の維持に努めている。

令和8年度予算では、市有施設の老朽化対策、新清掃工場、新病院、新児童相談所の建設、学校体育館のエアコン設置や道路整備などの事業投資により、市債残高および公債費の増加等も想定され、厳しい財政運営になると考えている。事業の精査や資金調達の工夫に取り組み、持続可能な財政を確立していく。



昨今の物価高は、市民生活にも大きく影を落としているが、市財政においても建設費の高騰など影響が出ており、今後の市有施設の老朽化対策や更新も計画通り進んでいくのか懸念される。また、医療や福祉に関連する経費も増加していくことから、堅実な財政運営に努めてもらいたい。

外国人市民との共生について

Q 外国人市民と共生の取り組みを。

A 本市に住む外国人市民は、42,316名、人口の4.3% (7月末現在) となっており、増加傾向にある。今後も増加が推測されるなか、言葉の壁によるコミュニケーション不足、生活習慣の違いによる日常生活でのトラブル、公共施設での意思疎通の支障などが課題として考えられる。

市では、「多文化共生推進アクションプラン」を策定し、生活相談、日本語指導、通訳・翻訳の支援などを行っているが、今後、プランを改定し、外国人市民が日本の文化・社会制度を学ぶ機会の拡充、日本語指導・習得の拡充に努め、共生できるまちづくりに取り組む。



さきの国政選挙では、外国人市民・児童を敵視したり、事実に基づかない主張等がSNSで拡散されたことを懸念している。一方で、地域からは「ゴミ出しルールを守ってもらえない」などの声も寄せられており、共生に向けた取り組みがこれまで以上に必要と考える。言葉の壁を超えるためにも特に日本語を学ぶ機会の充実に努めてもらいたい。

安心の老後・医療・介護について



Q あんしんケアセンターの機能強化を。在宅医療・介護連携の推進を。

A 平成18年の開設時は市内12か所・職員36名だったが、現在は32か所・職員156名に拡充しており、令和3年度からは、生活支援コーディネーターも配置し、機能強化を図っている。昨今、8050問題やごみ屋敷などの相談が増加するとともに、要支援認定者の増加に伴い、ケアプラン作成やサービス提供に時間を要するケースも発生しており、さらなる人材配置、支援機関の連携に努めていく。

また、「在宅医療・介護連携支援センター」を設置し、医療・介護専門職連携を進めてきたが、近年では高齢者のみならず若年・障がい分野での相談も増加していることから、連携コーディネーターを増員し、医療的ケア児などの相談支援にもあたっている。今後も対応力強化に努める。



「あんしんケアセンター」は、地域住民からのさまざまな相談に対応しているが、相談も複雑高度化し、困難事案も増えており、さらなる基盤強化が必要だ。

また、在宅医療・介護連携も今後ますます重要であり、支援機関との連携や対応力強化に努めてもらいたい。

脱炭素社会の推進について



Q 脱炭素(CO2削減)を進め、環境にやさしい千葉市を。

A 国の「脱炭素先行地域」として、令和5年度から市有施設や市内農地に太陽光発電設備の設置を進め、昨年度までに一般家庭800世帯分の年間CO2排出量削減に相当する約3,300KWを導入している。これらの電力を活用することで、令和8年度からは、「市有施設における電力消費に伴うCO2排出」が実質ゼロを達成する見込みとなった。

このほか、動物公園へのバイオマス熱ボイラー導入、幕張メッセの照明のLED化など、脱炭素に向けたさまざまな取り組みを進めており、今後も施策を積極的に展開していきたい。



脱炭素のためのさまざまな取り組みを進め、「市有施設でのCO2排出ゼロ」を達成することを評価したい。

国からも「優良事例」として高い評価を受けていることから、今後も「市民向けの補助制度の充実」など、さらなる脱炭素の取り組みを進めてもらいたい。

犯罪被害者への支援について

Q 犯罪被害者等への支援の推進を。

A 令和6年4月に「千葉市犯罪被害者支援条例」を制定し、6年度は延べ173名から相談を受け、そのうち殺人、重傷病、性犯罪の被害者等20名に対して、見舞金支給や日常生活支援を実施した。

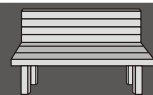
また、犯罪被害者等支援への理解促進を図るための被害者遺族による講演会や講座を開催し、計700名の参加があった。引き続き、犯罪被害に遭われた方々のニーズに応じた支援に努めていく。



市内の犯罪発生件数は、長年大きく減少傾向であったが、ここ数年は微増傾向にあり、非常に心配している。犯罪被害に巻き込まれてしまった方は、人生や将来を奪われ、一生心に傷を抱えることとなり、絶対にそのようなことを減らしていかなければならない。

犯罪被害者への支援とともに、防犯カメラの増設など、市民を犯罪から守る対策もさらに進めてほしい。

ベンチ設置について



Q バス停・街角へのベンチ設置推進を。

A 平成31年度に、「千葉市歩行空間のベンチ設置計画」を策定し、これまでに駅前広場・バス停に71基、生活関連経路(生活道路)に110基の設置を進めてきた。

バス停やその周辺へのベンチ設置を望む市民要望は多く寄せられていることから、今後は病院・商業施設等の生活関連経路(生活道路)へのベンチ設置をさらに進めてまいりたい。



地域からスーパーや商店が減り、高齢者の方々は買い物に行くのも大変な思いをしながら出かけており、道路や街角で重い荷物をぶら下げて、小休止している方々を目にすることも多くなっている。ぜひ、バス停や身近な道路・街角へのベンチ設置に今後も取り組んでもらいたい。

こどもたちへの支援について①

Q 学校における障がいのあるこどもたちへの支援を。

A 障がいのある児童生徒への支援として、特別支援教育指導員・介助員の配置、通級指導教室の整備・拡充を図ってきた。昨年度は指導員を延べ88名、介助員を25名配置した。きこえの教室・ことばの教室、LD等通級指導教室の利用者数は令和元年度776人➡6年度933人と増加しており、26校に76教室を設置してきた。

今年度は、指導員を3名増員したが、派遣要望は84校であり、今後も体制確保に努める。介助員については、「介助員サポーター」を新設し、専門性・資質向上を図るとともに、通級指導教室は、さらなる設置の検討を進めている。



障がいがあってもなくても、こどもたちが学校で憂いなく学べるようになってもらいたい。

特別支援教育を必要とするこどもたちが年々増えているなかで、支援体制の強化、人員の増員に努めていただいているが、ニーズに十全に追いついていない現状があることから、質実ともにさらなる施策拡充に期待したい。

大雨・雨水対策の推進について

Q 大雨・雨水対策のさらなる推進を。

A 市内で「重点対策地区」13地区を選定し、現在4地区で事業を進めている。宮崎地区では、菰池公園内に新たに2つ目の貯留槽(7,000㎡)を設置し、7月に供用開始するとともに、都町地区では、大田切公園に貯留槽(2,600㎡)を設置し、9月に供用開始した。

これにより、周辺地区でこれまで発生していた浸水被害が改善・軽減されると考えているが、都町地区では雨水管の増設・整備も進め、さらなる浸水被害の軽減に努めていく。弁天地区においては、千葉公園内への貯留槽整備工事(令和10年度完成予定)を引き続き、進めていく。



全国で被害が甚大化しているゲリラ豪雨に備えるべく、これまで大雨・雨水対策の強化を求めてきたが、重点地区のうち、中央区では宮崎地区、都地区でいち早く大型貯留槽が完成したことを歓迎したい。

千葉公園への貯留槽整備も公園利用者の安全に配慮しながら、早期整備を進めてもらいたい。

こどもたちへの支援について②

Q 学校における外国にルーツのあるこどもたちへの支援を。

A 日本語加配教員27名を17校に配置するとともに、指導協力員16名が日本語指導を必要とする350名の児童生徒の指導にあたっている。また、日本語指導通級教室をサテライト校を含めて3校設置し、中学生を対象に日本語指導も行っている。

指導により、学校生活への適応など効果が表れているが、①出身国の多様化に伴う人材不足、②学校に適応できない児童生徒もいること、③学校や地域との連携の難しさ、④切れ目のない日本語指導の体制づくりなどが課題であり、今後は児童生徒が早期に日本語指導を受けられるよう、「プレクラス」の設置検討など、支援を進めていく。



私の地元地区においても、外国にルーツのあるこどもたちが多く暮らしており、学校生活等でも頑張っているが、言葉の問題、勉強の問題などでやはり困難に直面することは少なくないと感じている。日本語の早期習得のための「プレクラス」の設置をぜひ急がれたい。

たくさんの声、いただきました!

～改善を求めて、取り組んでいます～

前回ニュース62号配布以降、さまざまなご意見を賜りました。ひとつひとつ改善・反映できるように努力してまいります。

貴重なご意見をありがとうございました。(一部をご紹介します)

- 祐光県営住宅前道路の交通安全対策を(椿森・祐光)
- カーブミラー設置を(浜野町)
- 鳩の糞害対応を(千葉港)
- 山部公園の安全対策を(東千葉)
- ろっぽう水のみちの整備を(東千葉)
- 町内自治会や地域組織の活性化支援を(多数)
- 千葉公園の木を伐らないでほしい(多数)
- 女性・ジェンダー施策の推進を
- 公民館の運営体制の改善を
- 野良猫の繁殖抑制・不妊手術をしてほしい(赤井町・花輪町)



【各地で野良猫の不妊手術を進めています!】